

若い世代の現状と特徴

劉 瑛

大連でも、職場で月収が5~8万円程度とあまり高くない収入の若い女性が「日本へ桜を見に行った」とか、「仕事にうんざりした。やめて将来何をすればいいか、ゆっくり考える」など、今の若者の考え方は昔とはずいぶん違います。

国営企業でも民営企業でも、管理者の共通する悩みは「80後（1980年~89年生まれ）」は管理に従わない。「90後（1990年~1999年生まれ）」はもっと個性が強く、管理者に対して聞く耳を持たない」などです。「すぐやめてしまう」ともよく聞きます。残業なども大嫌いで、進んでするべくもなく「お金のために残業を喜ぶ」以前の時代とは隔世の感があります。

人口調査によると、「80後」は2.28億人、「90後」は1.74億人で、「90後」は「80後」より23%減り、さらに「00後」は1.47億人と、「90後」よりも16%減っています。「80後」から社会が豊かになり、大学も募集人数を大幅に拡大するのに伴い、高等教育を受けた人口が大幅に増えました。

インターネットの普及によって、視野も広く、外国語が話せて様々な高い能力を有しています。豊かに育てられたため、消費意欲が高く、質の高い生活を重視し、親達が住宅・車に多くのお金を使うのに対し、若い世代は、「体験」に多くの費用をかけます。個性が強く、決められたことより自由に行動し、新たな体験することを好みます。

就職している「80後」世代に対する調査によると、「自分の給料は自由に使っている」が33.8%で、「給料の用途に対し特段の金銭観念がない」が24.3%で、「給料で主に家計を支えている。」は11.2%しかありません。クレジットカードのローンで先に商品を手に入れたり、就職しても親からお小遣いをもらったりすることも少なくありません。

一方この若い世代については、子どもの頃は祖父母4人+親2人の「4+2」から甘やかされたわがままな一人っ子でしたが、昨今の大学生の就職率は70%で、30%くらいは就職できない現状の中、今後は逆に、一人で「4+2」6人の世話を見なければならぬ状態となり、「親の世代よりストレスが高い」と感じているようです。

「一人で家族の面倒を見なければならず、死ねない」と重い責任が押し掛かり気が重い世代ともいえます。